

## 園長だより NO43

秋から冬へ、日中の穏やかな陽気から一変、日が陰りをみせると身体の芯から冷え込んできます。寒さが厳しくなってくると嘆かず冬の到来を子ども達と共に楽しみたいものです。



「きっかけは大人でも  
子ども達のものになっていく」

今月にはいり、以前からあれこれ考えていた環境づくりに子ども達の力をかりて取り組んでみました。

めろん組(5歳児)の保育室に遊びの拠点となる家(基地)などがあれば子ども達のあそびもより充実するだろうなーと担任保育士と以前から話はしていたものの、我が身の忙しさにかこつけ、時間が経過、そろそろやってみようかとめろん組で話題になり、取り組むことになりました。

子ども達の家(拠点)づくりの願いは2階建ての家、安請け合いで受けたものの少々、ハードルが高い、安全面も考えたうえで大人がそれなりの骨組み(土台)を作り、壁や内装を子ども達にやってもらうことになりました。

本職ではないので日曜大工のDIY程度ですが子ども達との営みは楽しいものです。

### 「何事もやってみること」

きっかけは大人からの提案でも、「やりたい」「やってみたい」という気持ちから何事も始まる。

- ① 子ども(子ども達)の興味を活動の出発点とし
- ② 子ども同士の「話し合い」を中心に活動を展開させ、子どもたちが協力し自分たちの活動を作り出せるようにする。
- ③ 一つの目的(今回は家、遊び場をつくらう)に向かって様々な方法を試みる経験をする。(活動中に起こった問題、些細なことでも仲間に伝え、考え取り組んでみる。)



上記のように活動の取り組みに主目標を立ててはみたが木工、道具体験も初めての子も達(本来はしっかり積み上げていくものです。)

「私や担任は活動での成果の多くを求めず、

一つの目的に向け、それぞれがつながり、共通の話題を持ち、気づきや発見を伝え合いながら仲間と取り組める時間を過ごせばいいな」という思いを持ちました。



子ども達の担う作業は板をうちつけることが中心となります。

「釘が曲がってしまう」「なかなか釘がはいらない」「板をおさえてくれ」「かなづちが重い」等々活動中にはそれぞれの思いが表出、それぞれの思いに共感したり、効率よくできる方法を考えてみたり、釘打ちが上手な子を師匠とあがめてみたり、数日間ではあるがなんとも楽しい活動が続きました。

「何事もアクティブでなくては」  
アクティブには活動的、積極的、自ら進んで働きかけるさま等の意味がある。  
子ども達には「おもしろそうだな」「あんなことやってみたい」という好奇心や探求心があり、木工制作などは大きいクラス

の憧れ、今回の活動は子ども達の気持ちがアクティブであったということ、好奇心や興味が活動の出発点になったのだと思います。

乳幼児期の遊びや学びには「主体性を尊重すること」「環境を通じた教育であること」「遊びや生活中心であること」が大切と言われています。

乳幼児期には指示や命令、与えられた経験、用意された活動を受け身で学ぶのではなく子どもの主体性を尊重した学びが大切であることを再認識。

### 「欲を言えば」

数日間の活動、「できた」「やれた」「おもしろかった」「またやりたいな」という感情を抱いた子ども達、家づくり(木工)をやりたいなと話題が出てくれればと思っています。家づくりに限らず、コリントゲーム(パチンコ台)のようなものもみんなでわいわいと取り組めたらいいなと思っています。

ただ大人の考えばかりではまさに大人主導、子ども達のこれからの生活、遊びを興味深くみてみようと思います。

生活の中で興味、関心を抱き、子ども達がある「テーマ」や「トピックス」について探求を深め、遊びに没頭できるものがこれから出てくる(うまれる)ことに期待しています。

秋からはグリーンと子ども達の育ちが育まれる時期、それぞれの子どもの成長が楽しみです。

(園長 廣部 信隆)